

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	140人	社会	140人	数学	140人
	理科	139人	英語	139人		

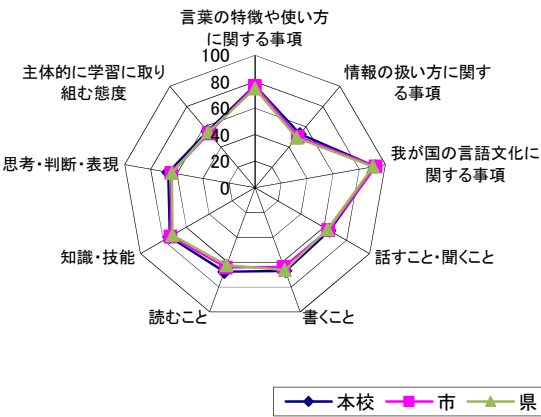
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.2	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	52.9	50.3	49.2
	我が国の言語文化にに関する事項	92.1	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	65.2	64.2	63.4
	書くこと	67.1	63.7	66.4
	読むこと	67.7	64.2	62.5
観点	知識・技能	74.4	73.7	71.9
	思考・判断・表現	66.7	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	55.7	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

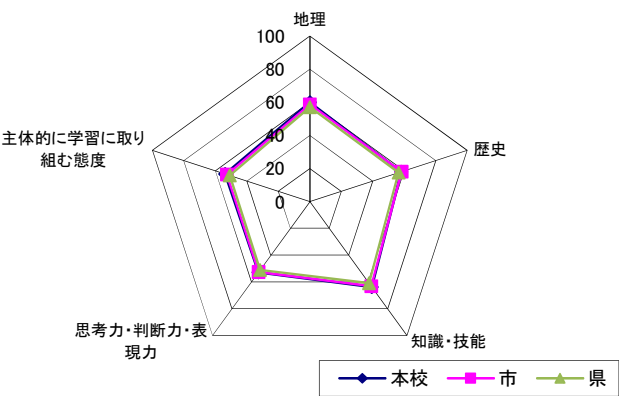
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	正答率は県を2.3ポイント、市を0.3ポイント上回っている。 ○漢字の読みの正答率は県と同程度、または上回っており、文脈から漢字の読みを類推できている。 ●漢字の書き、文節と文節との関係について、正答率の低い問題があった。	・基礎の内容である漢字の読み書きは、今後の学習への自信にもつながる。新出漢字や語句について、正確に理解し、定着させられるよう、ワークブックを用いた予習・復習の呼びかけを行う。また漢字の書きは小学校の内容についても、AIドリルの活用により反復練習を促し、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	正答率は県を3.7ポイント、市を2.6ポイント上回っている。 ○説明的な文章の内容解釈では県を8.5ポイント上回っている。 ●自分の考えが明確になるように構成できているかについては、県の正答率を1.3ポイント下回る問題があった。	・内容の理解はよくできているものの、話の構成を考えて自分の考えをまとめるところでつまずきが見られる。作文練習を多く取り入れ、繰り返し指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	正答率は県を1.4ポイント、市は0.5ポイント下回っている。 ○歴史的仮名遣いに関して文脈からの類推ができているものと思われる。 ●9割を超える正答率であったが、すべて正しく答えられず完答できない生徒がいた。	・今回の調査では、歴史的仮名遣いの出題のみで正答率を測っているものの、古典の学習については、古語の意味、文法的理解、文脈からの理解など、2年時以降の学習において再度復習できるものが多い。繰り返し学習を行い、定着を図る。
話すこと・聞くこと	正答率は県を1.8ポイント、市を1.0ポイント上回った。 ○話し合いの聞き取りは正答率が高い。 ●考えのまとめや話の構成は40%台であり、県とほぼ同様に正答率が低い。	・情報の扱い方と一致するところがあり、内容を理解してから文章にするまでの力が十分ではないと思われる。考えをアウトプットできるよう、授業内でより意識を高めた働きかけをする。
書くこと	正答率は県を0.7ポイント、市を3.4ポイント上回っている。 ○問題の指定通りに書くことができている。 ●読み取った内容を明確にして書くことについては、県の正答率を0.9ポイント下回った。	・自分の考えを書くことはできているため、読み取った内容を明確にして書ける力を伸ばす必要がある。後述の読みに関しては良い結果であるため、付随して伸ばせるよう授業内で書く機会を設ける。
読むこと	正答率は県を5.2ポイント、市を3.5ポイント上回っている。 ○半数の問題で県の正答率を6.3～8.5ポイントの幅で上回っている。 ●根拠を明確にして考えているかを問う出題では、正答率が47.9%と5割に届かず、理解が不十分な生徒が多い。	・内容の解釈や表現の効果については根拠を明確にして書けている。一方で、文章の構成や展開となると正答率は「読むこと」の中で比較すると低い。構成や展開について丁寧に例示を交えて触れるなど、意識して授業改善につなげていく。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	60.0	58.7	57.0
	歴史	58.1	58.3	56.4
観点	知識・技能	63.9	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	52.9	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	53.8	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

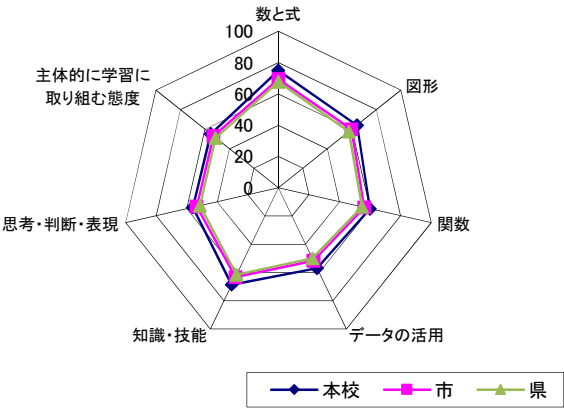
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	正答率は、県を3.0ポイント、市を1.3ポイント上回っている。 ○「世界の姿」の問題は、すべて県の正答率を上回っている。 ○「日本の姿」の問題は、県の正答率を平均で8.9ポイント上回っており、ほぼ理解ができている。 ○「世界の諸地域」のヨーロッパ州、アフリカ州に関する問題は、県の正答率より平均で7.5ポイント程度上回り、オセアニア州に関する問題、県の正答率より2.7ポイント上回っている。 ○「南アメリカ州の開発と環境保全」について複数の資料をもとに考察し表現する問題は、県の正答率を7.1ポイント上回っている。 ●「世界各地の人々の生活と環境」の資料をもとに考察する問題は、県の正答率より平均で1.5ポイント程度下回っている。 ●「世界の諸地域」のアジア州とアメリカ合衆国に関する問題は、県の正答率より平均で6.5ポイント程度下回っている。	・資料を精選し、読み取りの際には分布や変化に注目させ、読み取りの視点を明示した上で考察させる指導を継続する。 ・ICT機器や世界各地の人々の生活の動画を効果的に活用して、各地の生活に興味を高めさせる。 ・複数の資料から各地の生活の特色を読み取らせる指導を随時行う。 ・気付きを発表させる言語活動の展開を充実させる。
歴史	正答率は、県を1.7ポイント上回っているが、市を0.2ポイント下回っている。 ○「縄文時代～古墳時代」の問題は、ほぼ県の正答率を上回っている。 ○「飛鳥時代～平安時代」の問題は、すべて県の正答率を上回っている。 ○「中世の日本」の承久の乱についての問題は、県の正答率を6.0ポイント上回っている。 ●「中世の日本」の勘合貿易についての短答形式の問題は、県の正答率より5.3ポイント下回っている。 ●「武士の成長」について複数の資料をもとに考察し表現する問題は、県の正答率より3.4ポイント下回っており、正答率が15.7%と低い。	・「古代までの日本」については、時代のまとまりをしっかりと捉えて、時代を代表する人物や歴史的事象を通して、歴史の学習に関心を高められるよう指導を工夫する。 ・「中世の日本」については、古代までと比べると正答率が低くなる傾向にある。身近な中世の史跡や人物を図書資料やICT機器で分かりやすく紹介し、理解を深め関心を高める指導を工夫して行う。 ・資料をもとにした考察、表現の問題に対応できるようにするために、数多くの資料を活用し、資料活用の視点、解釈の仕方などを中心に正しく読み取れるように指導の工夫を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	74.8	69.3	67.7
	図形	64.2	59.8	57.7
	関数	59.9	56.2	54.7
	データの活用	56.9	51.6	49.9
観点	知識・技能	68.6	63.2	61.5
	思考・判断・表現	56.0	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	55.2	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

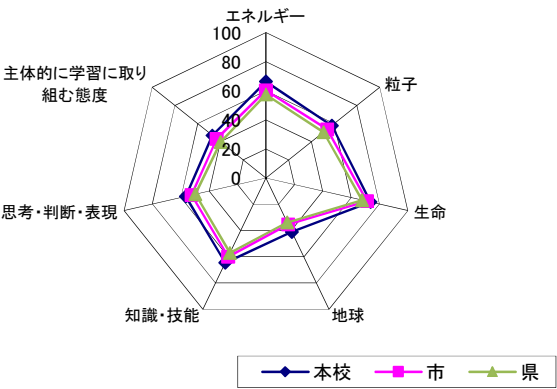
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、県を7.1ポイント、市を5.5ポイント上回っている。 ○正負の計算、文字式の計算の問題では、全ての問題で、県・市の正答率を大きく上回っている。 ●文章表現で大小を問う不等式の問題で、4.3ポイント県の正答率を平均を下回っている。	・引き続き計算力を高められるように、授業の最初に計算練習を入れたり、AI型個別学習ドリルを活用した学習を効果的に取り入れたりして、学習内容の定着を図る。 ・用語の持つ意味などの定着のために、授業の振り返りで、その用語を用いて自分の言葉で書かせるなどの工夫を図る。 ・説明をする問題に対して、授業中にも取り扱ったり、定期テストに出題したりして問題に慣れさせる。
図形	正答率は、県を6.5ポイント、市を4.4ポイント上回っている。 ○平面図形、空間図形とも、全ての問題で県、市の正答率を上回り、学習内容の定着が図られている。 ●角の二等分線の作図、球の表面積を求める問題では、50%以下の正答率であった。	・図形の基本的な知識や技能をさらに定着させるために、図形の学習に入る前に、既習内容の復習を行う。
関数	正答率は、県を5.2ポイント、市を3.7ポイント上回っている。 ○比例、反比例について式に表したり、xの値からyの値を求める問題では、正答率が高い。 ●関数の文章表現から解答をつくる問題で、理解が不十分な面が見られる。	・式、表、グラフの関係が相互に結び付けられるように、生徒が授業の中で自分自身の言葉でまとめられる機会を作り、内容の定着を図る。 ・関数に関しては、全体的に理解度の低さが見られるので、少人数学習を取り入れたり、AI型個別学習ドリルを家庭学習の課題として活用したりして定着を図る。
データの活用	正答率は、県を7.0ポイント、市を5.3ポイント上回っている。 ○どの問題もおおむね60%以上の正答率であり、定着しつつある。 ●読み取った内容から説明する記述問題は正答率が37.1%と低い。	・実力テストの前や後の効果的なタイミングで復習を取り入れ、定着を図っていく。 ・資料を読み取り、内容を説明する問題については今後、練習を積み理解できるよう指導する。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	66.3	60.3	57.4
	粒子	57.9	53.8	50.7
	生命	73.6	71.2	67.8
	地球	41.1	35.3	33.8
観点	知識・技能	64.6	59.9	57.0
	思考・判断・表現	56.5	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	47.0	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

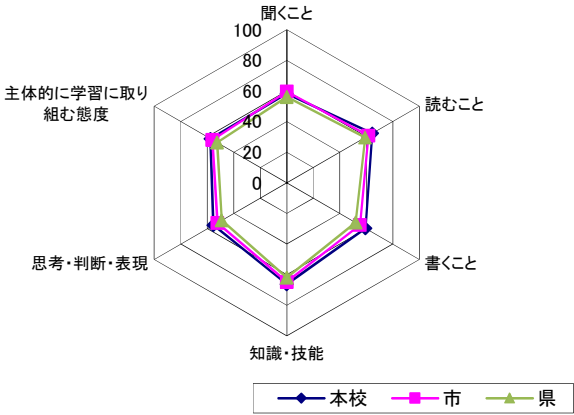
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は県を8.9ポイント、市を6ポイント上回っている。 ○音の性質では、85%の正答率で学習内容の定着が図られている。 ●入射角が0°の時の光の進み方で指摘できるか問う出題では、無解答が10.1%おり、理解が不十分な生徒がいた。	・異なる媒質へ進む光の様子について、文章を用いての表現が定着するように、AI型学習ドリルを授業や家庭学習の課題として活用する。 ・反射やレンズの現象は、光の道筋を丁寧に作図させ、屈折の様子がイメージさせられるように指導を工夫する。
粒子	正答率は県を7.2ポイント、市を4.1ポイント上回っている。 ○物質の状態変化については県より9ポイント以上上回っている。 ●質量%濃度の式についての正答率は20.1%で、無解答が34.5%、尿素の結晶が出てきた理由を、尿素の溶解度から分析できるか問う出題の正答率は32.4%で、無解答が45.3%おり、学習内容の理解が不十分である。	・水溶液の性質の問題に対して、質量パーセント濃度を求める練習問題を、授業の初めの振り返りの時間などで繰り返し行い、定着を図る。 ・記述式の問題に対して無回答の生徒が多くなってしまうことに対して、授業中に理由を答える質問をしたり、記述式の問題を繰り返し解かせたりして、苦手意識の払拭を図る。
生命	正答率は県を5.8ポイント、市を2.4ポイント上回っている。 ○植物を分類する基準、セキツイ動物と無セキツイ動物に分類する基準の理解についての正答率は92.1%で、学習内容が定着している。 ●双子葉類と単子葉類に分類する基準を指摘できるか問う出題では、無回答が10.8%おり、理解が不十分な生徒がいた。	・「発問に対して文章で答える」活動を授業中に積極的に取り入れ、生徒の言語能力を伸長する。 ・なかまわけでの生物の特徴の違いを明確にさせるときに、表にまとめたり、図に示すなど、視覚的にまとめる学習活動を多く取り入れる。
地球	正答率は県を7.3ポイント、市を5.8ポイント上回っている。 ○地震によって発生するP波とS波について理解しているか問う出題では、正答率が74.1%で県を10.0ポイント上回っている。 ●火山や地層に関するすべての問題で県を上回っているが、双眼実体顕微鏡の使い方や砂岩の層が中生代に堆積したと予想した理由を指摘できるか問う出題では、正答率が28%台と低く、理解が不十分である。 ●柱状図から考えられることを検討し、考えを改善できるか問う出題では、正答率が18.7%で無解答も13.7%いることから、学習内容の理解は不十分である。	・火山の形、マグマの粘り気、鉱物の種類、岩石の種類について、関わりを意識させ、図や表で視覚的に捉えさせながら授業中に整理して生徒自身がまとめる活動を取り入れ、学習内容の定着を促す。 ・年度末に取り組む単元なので、繰り返し学習する時間が十分に取れないため、AI型学習ドリル等の課題を春季休業の課題に取り入れるなどして、内容の定着を図る。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.3	59.6	56.1
	読むこと	64.5	61.6	59.1
	書くこと	59.4	55.2	51.9
観点	知識・技能	66.2	64.7	61.9
	思考・判断・表現	55.3	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	57.6	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、県を2.2ポイント上回ったが、市を1.3ポイント下回っている。 ○対話文の応答を問う問題では、3問中2問が県を5ポイント程度上回っている。 ●さまざまな英文を聞いて英文の要点を聞き取る問題では49.6%、尋ねられたことに対して自分の考えを英語で答える問題では20.9%という低い正答率である。	・基本文の導入などの際、生徒同士や生徒と教師間での英語でのやりとりを多く取り入れ、相手が話したことを正しく理解したり、即興で応答したりする活動を継続して行う。 ・教科書の本文の内容に関する質問を英語で出題し、生徒がそれに答えるドリル活動を多く取り入れる。
読むこと	正答率は、県を5.4ポイント、市を2.9ポイント上回っている。 ○語形・語法・語彙の知識・理解を問う問題では、すべての問題で県を上回っており、特にbe動詞の過去形wereの問題では10.3ポイント上回るなど、理解度が高い。 ●長文を読み取り、読み取った内容をふまえて対話文を完成させる問題では、38.1%と低い。	・長文理解を苦手とする生徒に対応するため、文法や単語に関する知識を適切に活用して長文を読むことができる問題を授業の中でより多く扱い、生徒が長文読解に慣れるようにする。
書くこと	正答率は、県を7.5ポイント、市を4.2ポイント上回っている。 ○単語を並べかえて正しい語順で英文を書く問題では、すべての問題で県を上回っており、特に現在進行形の否定文の問題では90.6%という高い正答率であった。 ●場面に応じて対話の流れに合った英文を書いたり、与えられた情報に基づいて正確に書いたりする問題では、30%台という低い正答率であった。	・各単元のごとに、自分の考えを書く活動を計画的に取り入れ、ある程度まとまりのある英文を書く練習を継続的に行うことで、英作文に対する苦手意識を克服していけるようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で宿題をしている」の肯定的な回答は県、市より10ポイント以上上回っている。また、「家で、学校の授業の予習をしている」は市を12.6ポイント、「家で学校の復習をしている」は市を7.1ポイント、「家でテストで間違えた問題について勉強している」は市を7.1ポイント上回っている。学校全体での取り組みである「自主学習ノート」の提出率も高く、家庭学習の習慣が身に付いてきている。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」では肯定的な回答が県・市より10ポイント以上上回っている。各教科や特別活動、総合的な学習の時間において、言語活動を充実させてきた取組の成果が現れている。

○「家の人と将来のことについて話すことがある」では、肯定的な回答が、県・市より10ポイント以上上回っており、80%を超えている。家庭環境や家族のコミュニケーションが良好であることが伺える。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からない時は、辞書を使っている」の肯定的な回答が、県・市より10ポイント以上上回っている。電子辞書やパソコン活用も含まれていると考えられるが、分からないことは自分で調べるという、生徒の探求心を伸ばしていける指導を各教科等で実践していく。

●「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)をまとめて書いてある」の肯定的な回答が、県・市より20ポイント程度下回っている。授業の導入で、本時の課題を理解させた上で学習の見通しを立てさせたり、まとめを分かりやすく板書し理解させ、ノートや学習プリントに書かせるなど指導を工夫していく。

●「次の教科の問題を解く時間は十分でしたか。国語」のところで時間が「足りない」「やや足りない」、「次の教科は好きですか。社会」のところで「いいえ」「どちらかといえば、いいえ」の否定的な回答が過半数位あった。今後は、分かる授業に努め、生徒の意欲や興味・関心を高め、主体的に学習に取り組めるよう指導していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの作成 ・スタンダードテストの実施	・毎日、A4ノート1ページ分の学習を家庭で行って提出する。 ・年間に10回程度、計画的に朝の時間を使って漢字の書き取りテストを実施する。	「家で宿題をしている」の肯定回答が県、市に比べ10ポイント以上上まわっている。また、「家で、学校の授業の予習をしている」の肯定回答が市を12.6ポイント、県を16.3ポイント上回っており、家庭学習が充実している様子が伺える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
授業の最初に学習の目標(ねらい)を明確にし、授業の最後に振り返る活動を行うようにする。	授業の導入で生徒にねらいを捉えさせ、最後に振り返る学習活動を、どの授業でも行えるように教員の意識を高める。	・本時の課題をはっきり理解させる導入や、本時で身に付けさせたいことをまとめるとともに学習を振り返る終末を工夫するなど、授業改善を行う。